

## こもれび学級 国語科

単元名 筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう  
「『鳥獣戯画』を読む」「調べた情報の使い方」「日本文化を発信しよう」  
令和5年 11月20日(金) 5校時  
児童 こもれび学級3組 6年生4名  
場所 こもれび学級3組

### 1. 単元について

#### (1) 学級の児童の実態

これまでの学習から、作品を読んで表現の特徴を考えたり、人物像や作品の全体像を捉えて自分の考えをまとめたりする学習を重ねてきている。本学級の児童は、昨年度より国語科の学習においては、交流学級担任との細かな打ち合わせの基、単元の学習スタイルを以下のように行っている。

「構造の内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成」の  こもれび学級で児童の実態に合わせた

「共有」の学習場



交流学級で多くの児童との関わりを大切にする学習

その結果、以下のような児童の様子が見られる。

- ①多くの児童と共有するという目的のため、意欲的に学ぶ姿勢が見られる。
- ②課題や自分の疑問に対して、粘り強く取り組む姿勢が見られる。
- ③交流学級での共有場面では、積極的に自分の考えを伝える姿が見られる。
- ④自分の考えと比べながら、友達の考えに耳を傾ける姿が見られる。

上記の姿を更に伸ばしていきたいと考える。

#### (2) 研究とのかかわり

研究主題を受け、本学級では、自己肯定感を育みながら、安定した人間関係の形成をもとに、コミュニケーションを高め、児童が互いに成長しあえる基盤を作っていきたいと考える。本学級における教科の学習においては、仮説1「児童の教育的ニーズを把握し、実際に応じた課題設定や適切な支援をすることで意欲的に学習に取り組み、生活に必要な力が高まるだろう。」を受けて、以下の目指したい児童の姿を設定する。これにより、児童にとって生活に必要な力が育まれることにつながると考える。

国語科の学習指導要領では、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することが目標に示されている。上記の児童の実態をふまえ、国語科の学習を通して、日常生活における人との関わりの中で、伝え合う力を高め、思考力や創造力を養うことができるのではないかと考える。

<目指したい児童の姿>

#### <言葉による見方・考え方を働かせる>

言葉そのものを見つめて吟味・判断する活動を通して、相手の言葉をよく考えて理解しようとしたり、言葉を選んで話をしようとしたりすることができる子

#### <考えの形成と共有>

叙述の根拠をもとに、自分の考えを明確にすることにより、自信をもって相手と考えの共有をすることができる子。自分の考えとの共通点や相違点を見つけながら相手の話を聞くことを通して、相手の話に関心をもつことができる子

#### <言語活動を通して主体的・対話的な学び>

相手や目的、意図、場面などに応じて適切に表現する活動の繰り返しを経験することで人とのコミュニケーションを円滑にし、人と関わることを楽しむことができる子

実際の生活場面

(生活に必要な力)

以上のねらいから、今年度6年こもれび学級の国語の学習では、学習の単元構成は交流学級と同じものを個別の学習として、考えの形成に重点をおいて学んできた。単元の最後に行われる共有の場面では、自分自身

の考えをしっかりともち、必ず交流学級で行うことにより、上記の目指す子どもの姿に近づけていきたいと考えている。

### (3) 教材観

本教材「鳥獣戯画」を読むは、十二世紀末に生み出された「鳥獣人物戯画像」の一部について、アニメーション映画監督である高畑勲氏が書いた尾括型の評論文である。児童にとって、いかにも馴染みのない「鳥獣戯画」の技法であるが、ジブリ作品を多く手がけた高畑勲氏の人物像から、一気に身近なものへと印象づけたい。また、文章を読み進めるうちに、絵の技法に引き込まれることが予想される。

児童は、今までの説明文の学習を通して、双括型の文章と多く出合ってきたことから、今回の尾括型の文章の構成についても違いを明確に触れさせたい。また、本文章構成が既習の「始め・中・終わり」に当てはまらない「中・終わり」の形であることにもふれ、その効果についても考えさせたい。

本単元の目標の1つである「B(イ)構成の検討」の高学年の重点は、「筋道の通った構成を考えること」となっている。相手に伝えたいことをわかりやすく伝えるためには、筋道の通った文章を書くことが不可欠である。筋道が通っているとは、伝えたいことが首尾一貫していることであり、考えの進め方論理的であることである。このことから、本単元を通して、文章の構成や論の進め方に着目させながら、自分の考えを書き進めることができる児童の姿を目指したいと考える。

2つ目の「B(エ)考えの形成・記述」においては、事実について客観的に見る力と、事実に対する感想や意見を持ち、それを区別しながら書く力を育てることが必要であるとなっている。自分の考えが資料を通して、客観的な事実であることと、自分の考えをより確かなものになっていく(考えの形成)ような学習過程となるようにしたい。このことから、本単元を通して、表現の工夫に着目させながら、自分の考えを書き進めることができる児童の姿を目指したいと考える。

また、書く指導で大切にしたいことが、子ども自身が自ら思考判断し、自分の書いた文章について推敲することができる姿である。文章の構成や表現の工夫について、何度も読み返すことを通して、自分の力で文や文章を整えることができるよう、推敲のための観点を明確に持たせたい。それが、日常での推敲の力につながると思う。

## 2. 単元の指導目標

○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。

＜書くこと(イ)構成の検討＞

◎引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

＜書くこと(エ)考えの形成・記述＞

○目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。

＜読むこと(ウ)精査・解釈＞

○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。

＜我が国言語文化・読書＞

## 3. ねらいを達成するための言語活動

日本の良さを再発見！「やっぱりいいよね！これぞ！日本の文化！」を伝えよう！

「鳥獣戯画を読む」で読み取った文章を効果的に表現する工夫や論の進め方を生かしながら、自分が伝えたい日本の文化について文章にまとめる。自分の考えの根拠や具体例について本やインターネット等を活用しながら引用できるようにしたい。

この言語活動の設定においては、以下の「5つの言語意識」を設定することで、目的を明確にして学習を進めることにつなげたい。

＜5つの言語意識＞

①相手意識(だれに)	参観日に来校される保護者のみなさんに
②目的意識(何のために)	世代を超えて、日本の良さを共感してもらうため
③場面・条件意識(何を)	・クラスのグループで紹介し合い、自分の考えと比較したり、書き方の工夫について評価し合ったりする。 ・図書室前など目につく場所に掲示して紹介する。
④方法意識(どのように)	リーフレット(Google スライド)
⑤評価意識	自分の紹介を振り返る。学びを振り返り、できるようになったことを自覚する。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。</p> <p>＜我が国言語文化・読書＞</p>	<p>・「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。</p> <p>＜書くこと(イ)構成の検討＞</p> <p>・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <p>＜書くこと(エ)考えの形成・記述＞</p> <p>・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。</p> <p>＜読むこと(ウ)精査・解釈＞</p>	<p>・文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもってパンフレットを作ろうとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全11時間 本時 5/11）

次	時数		学習活動	指導の留意点と支援の手立て	評価規準			ICT活用	
					知	思	態		
第1次	1	見通し	・「鳥獣戯画」を読むの全文を通読し、学習の見通しをもつ	・教師の見本を提示することで、学習の見通しを明確にし、自分が発信する「日本の文化」をどのように選択するのかの道しるべとする。 ・日本の文化には、どのようなものがあるのか見通しをもつ	○		◎	日本の文化について調べる	
	2	精査解釈	・筆者の伝えたいことと論の展開の仕方についてとらえる。	・既習の学習と比べて考えることで、論の展開の特徴に気づかせる。※アップとルーズ→ ※時計の時間→双括型			◎	○	アップとルーズがわかりやすいようにでの提示
第2次	3	精査解釈	・絵と文章を照らし合わせながら、筆者の見方についてとらえる。	・ワークシートを活用しながら、文章が表しているものが、絵のどの部分を指しているのかを書き込めるようにする。 ※色分けした線で結ぶ・囲み・文で表現			◎	○	
	4	精査解釈	・筆者が自分の考えを伝えるために、どのような工夫をしているのか考える。	・前時のワークシートを活用しながら、わかりやすい、伝わりやすいと感じる表現の工夫について交流し、活用できそうな表現があるかどうか考える。			◎	○	
	5	本時	・筆者の工夫を使って、7段落の続きの解説文を書く。	・「それぞれがどういう気分を表現しているのか」の言葉に注目させる。かえるの表情に注目させながら、自分なりの評価で解説文を書く。 ※表現のワザチェックシートを活用し、文章の構成を効果的にできるように考える。 <b>（自己評価）</b>			◎	○	ドキュメントの活用
	6	考えの形成	・「調べた情報の使い方」を確認し、自分の伝えたい「日本の文化」について考える。	・5つの言語意識を再確認し、相手によりよく伝える方法を意識しながら題材を選択させる。	○		◎		自分が伝えたい日本の文化について jamboard で交流
第3次	7	考えの形成	・パンフレット作りの題材に沿ってくわしく調べる。	・本で調べたことを通して、自分の考えをより伝えやすくするためにはどのような資料が適しているのかを明確にしてからインターネットの活用もするよう促す。	◎		○		

	8	考えの形成	・日本の文化の魅力が伝わるように、構成や表現を考えてパンフレットを作る。	・第2～4時で学習した「表現のワザ」を活用できるように視角的な学習の足跡を活用する。 ※表現のワザチェックシートを活用し、文章の構成を効果的にできるように考える。 <b>(自己評価)</b>		◎		ドキュメントの活用
	9	推敲	・自分の考えの根拠や具体例・図や表が適切かどうか検討し、考えを再構築する。	・第3時で学習した「絵と文章の対応」が文章で効果的に伝わっているかどうか推敲する。 ・グループで交流し、チェックシートに沿って表現の工夫がなされているかどうか説明し合う。 <b>(相互評価)</b>		◎	○	ドキュメントの活用
	10	考えの形成	・パンフレットの完成。	・5つの言語意識を再確認し、相手によりよく伝える方法を意識しながら書き進める。 <b>(自己評価)</b>		◎	○	ドキュメントの活用
第4次	11	交流と共有	・パンフレットに対する感想と振り返り	・作成したパンフレットを読み合い、表現の工夫にはどのようなものがあるのかに視点をもたせる。 <b>(相互評価)</b>	○		◎	

※1 「鳥獣戯画絵巻」を自立活動の時間に制作し、興味・関心を高め、筆者の表現のうまさや工夫を感じられるようにする。(第1時と2時の間)

## 6. 本時の指導

### (1) 児童の実態と個別目標

児童	児童の実態		本時の個別目標	個別の手立て
	生活全般	国語科		
A児	△自信のなさから、自分の考えを相手に伝えることに消去的 ○相手に合わせて行動すること	△自分の考えを伝えること ○簡潔に話したり、書いたりすること △詳しく内容を膨らませて表現すること	・3つの観点に沿って、賢治の独特表現について、文章中から見付けることができる。 ・どのような想像ができるか、教師と一緒に考えることができる。	・教師との対話の中から、自分が納得する答えを導き出せるようにする。
B児	△自信のなさから、自分の考えを相手に伝えることに消去的 △大勢の前で、考えを発表したり、グループのリーダー的な役割をしたりすることを避ける。 △気の許せる友達とは、自分から関わるができるが、うまく人と関わるできない。 △茶化してごまかそうとする。 △自分から口火を切れない。 △止まっていられず、集中が短い。 ○下級生への面倒見の良さ ○好きなこと(昆虫)への探究心	○話の中心を捉えること △相手の話を聞くこと △要点をまとめて話したり、書いたりすること	・3つの観点に沿って、賢治の独特表現について、文章中から見付けることができる。 ・どのような想像ができるか、自分なりの考えをもつことができる。	・自分の考えを話すことで思考を整理する手立てとする。
C児	△些細なことで心が折れやすい。 △意欲が低い。 △気持ちの切り替え △怒りっぽい	○話の中心を捉えること △字を書くこと全般 △長文を読むこと △文章の内容に興味の有無が大きく左右される。 △相手の話を聞くこと	・最後まで学習に取り組むことができる。 ・自分なりの考えをもち、話すことができる。 ・相手の話に耳を傾けることができる。	・作業の軽減 ・代筆 ・会話で学習が進むようにする。

D 児	○人と関わること ○何事にも挑戦しようとする姿勢 △指示が増えると情報処理が難しい △場面の状況判断	△順を追って話を進めること △話の中心を捉えて話したり、聞いたりすること △話の全体像を捉えて話したり、書いたりすること △短く一文で書き表すこと。接続詞を使って表現すること。 △主語と述語の関係を正確に捉えること。 ○学習への意欲の高さ	・3つの観点に沿って、賢治の独特表現について、文章中から見付けることができる。 ・文章中から、短い言葉で抜き出すことができる。 ・どのような想像ができるか、自分なりの考えをもつことができる	・自分の考えを話すことで思考を整理する手立てとする。 ・長い文章を選んだ場合には、どの言葉が特に重要なのか言葉を削っていく。
--------	---	--	--	---

	学年	指導事項	A	B	C	D
構造と内容の把握	1 ・ 2	・時間的な順序や事柄の順序に沿って内容のだいたいを捉えること。 ・場面の様子や登場人物の行動など、内容のだいたいを捉えること。	◎	◎	◎	○
	3 4	・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述をもとに捉えること。 ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉えること。	◎	◎	◎	△
	5 ・ 6	・事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。	○	○	○	△
精査・解釈	3 ・ 4	・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。 ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結びつけて具体的に想像すること。	○	○	○	○
	5 ・ 6	・目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすること。	○	○	△	△
考えの形成	5 ・ 6	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。	○	○	○	○
共有	5 6	・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。	○	○	△	◎

## (2) 目標

- ・筆者の表現の工夫を使い、7段落の続きの解説文について、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- ＜書くこと（エ）考えの形成・記述＞

## (3) 展開

	学習内容	教師の関わり	◆支援（研究との関わり） ○留意点 □評価
導入	1. 前時の学習のふりかえり	・第2～4時で学習した筆者の技法について思い出させる。 第2時：文の構成 第3時：文の進め方 第4時：表現の工夫 ・「3匹の応援蛙のポーズと表情もまた、すばらしい。それぞれが、どういう気分を表現しているのか、今度は君たちが考える番だ。」の文に注目させる。	○今までの学習をもとに本時の学習があることを知らせ、できそうだという意欲を持たせる。 ◆教師の作成例を提示し、本時のゴールのイメージを持たせる。
展			

開 2. 本時の学習の見通し

筆者の表現の工夫を使って、3匹の応援蛙の様子についてわかる解説文の続きを書こう。

3. 自力解決のための見通し

・前時までの学習のうち、3つの観点「文の進め方1」「文の進め方2」「表現の工夫」についてのワザを活用して自分なりに想像を膨らませながら書き進めることを伝える。

①文の進め方1

・どの蛙に注目して書くのかを明確にさせる。またそこから書き始めると良いことを伝える。

②文の進め方2

・良さを伝える評価文であることを再確認し、「褒める言葉」を書くことを伝える。

③表現の工夫

・自分が使ってみたい技法を一つ以上使ってみることを知らせる。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
文の構成①	文の構成②	文の進め方①	文の進め方②	表現の工夫①	表現の工夫②	表現の工夫③	表現の工夫④	表現の工夫⑤	表現の工夫⑥
筆者の表現は最後の段落だけ	アップルピース方式 (全体と一部分の関係を繰り返す)	絵と文章を対応させて書き進める	良さに注目してくりかえし書く	言い切り(体言止)	空想物語	音を表す言葉	一文が長い(リズム感)	語りかけ(「わな」「ね」「そうし」)	金銀文
チェックシート その1									
たくさん使ってみよう!	必ず使ってみよう!								

おもしろい  
すばらしい  
いいものだ  
すてきなものだ  
わたくしは  
おもしろい  
すばらしい  
いいものだ  
すてきなものだ  
わたくしは  
おもしろい  
すばらしい  
いいものだ  
すてきなものだ  
わたくしは

◆表現のワザチェックシートを活用する。

◆書き始めを個々に明確に持たせることによって、自力解決の糸口を持たせる。

◆ほめ言葉集を提示することで、語彙を豊かにし、文章を書き進める手助けとする。

◆自分の考えを話すことで思考を整理する手立てとする。

◆つぶやきを拾いながら、他の児童へ考えを広げ、思考の助けとなるようにする。

◆一文が長くないように確かめさせる。(D児)

◆教師との対話の中から、自分が納得する答えを導き出せるようにする。(A児)

□3つの観点に沿って、書き進めることができたか。(ドキュメント)

4. 課題解決  
＜個人思考・自力解決・交流＞

A: 奥の蛙・B: 真ん中の蛙・C: 左の蛙 (蛙の表現の仕方)

・3つのうち1匹の蛙に絞って書かせる。

・絵からわかることに注目させる

・今までのストーリーや筆者の解説からわかることから想像させる。

・蛙がうさぎを投げ飛ばした  
・うさぎは笑っている  
・蛙とうさぎは仲よし  
・和気あいあいとした遊び  
・3匹は応援蛙

＜個人推敲＞

・書いた物を読み、間違いがないかどうか確かめさせる。  
・書き進めながら、チェックシートを活用し、「文の進め方1」「文の進め方2」「表現の工夫」について効果的に工夫できているかどうか確かめさせる。

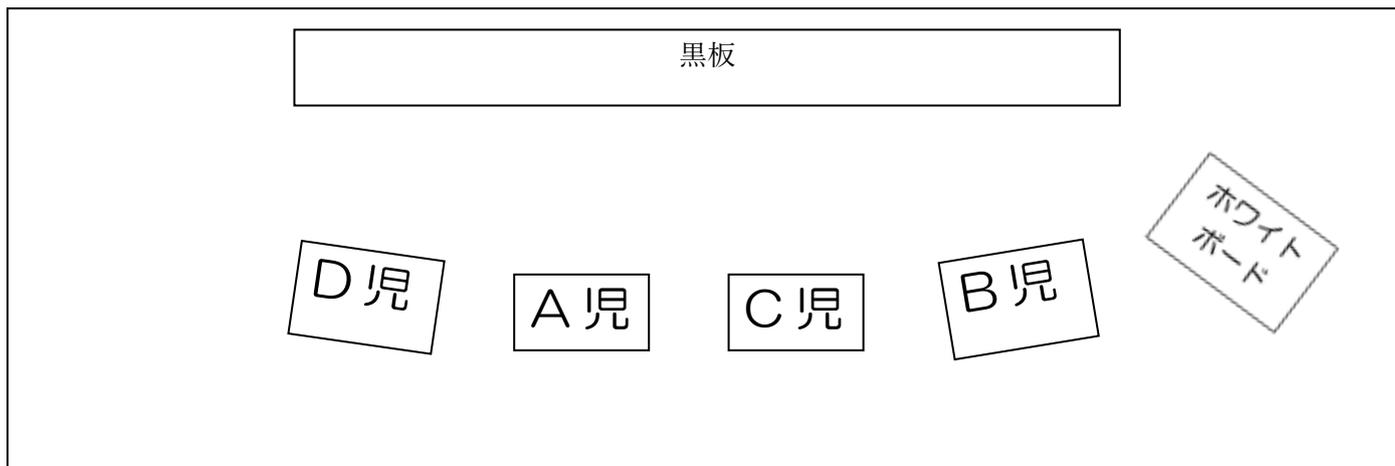
5. 本時のまとめ

3つの表現の工夫を使うことで、「よさ」がよりよく伝わる書き方をすることができる。

終末



8. 配置図



9 資料 (ワークシート・前時までの学習・支援の手立て)



のかえるを見てごらん。